

J-SAILING

JAPAN SAILING FEDERATION



NO.103

www.jsaf.or.jp



楽しさ広がる！
ナビスコリッツ



ヤマザキナビスコ



スポーツ祭東京 2013 「とどけようスポーツの力を東北へ！」

東日本大震災復興支援 第 68 回国民体育大会セーリング競技会
9月29日～10月2日（東京都・若洲海浜公園ヨット訓練所）



成年女子セーリングスピリッツ級のスタート

千葉県が天皇杯を獲得！

東京国体セーリング競技が2020年に開催する東京オリンピックと同じ海面の若洲海浜公園のヨット訓練所で開催された。監督・選手565名、参加艇数347艇が全国から集まった。陸上施設に選手とヨットがあふれ、レース海面へ行くにも荒川河口の航路を横断せねばならないなど厳しい状況にあったにもかかわらず、スムーズな大会が開催された。

レポート／森 信和（JSAF 国体委員会副委員長） 写真／濱谷幸江



全都道府県が参加した成年男子国体シングルハンダー級。背後に新名所、東京ゲートブリッジが見える



和歌山 宮川・栗栖

成年女子
セーリング
スピリッツ級

- | | |
|-------|----------|
| 1 和歌山 | 宮川・栗栖 |
| 2 千葉 | 持田・高橋 |
| 3 大阪 | 河合・山下 |
| 4 山口 | 内富・高橋 |
| 5 大分 | 後藤(季)・安部 |
| 6 愛知 | 藤井・加藤 |
| 7 岐阜 | 渡邊・松永 |
| 8 鳥取 | 平岡・西尾 |



東京 飯束・八山

成年男子
470級

- | | |
|-------|-------|
| 1 東京 | 飯束・八山 |
| 2 福岡 | 土居・磯崎 |
| 3 愛知 | 高橋・杉浦 |
| 4 千葉 | 野呂・渡邊 |
| 5 長崎 | 田口・原田 |
| 6 愛媛 | 今村・大嶋 |
| 7 和歌山 | 市野・大矢 |
| 8 鹿児島 | 今村・高瀬 |



東京 富部 柚三子

成年女子
シーホッパー級
スモールリグ

- | | |
|-------|--------|
| 1 東京 | 富部 柚三子 |
| 2 石川 | 谷内 志緒里 |
| 3 北海道 | 松苗 幸希 |
| 4 三重 | 河原 由佳 |
| 5 佐賀 | 中山 由佳 |
| 6 広島 | 濱田 華帆 |
| 7 神奈川 | 樋口 美紗 |
| 8 京都 | 安田 千秋 |



佐賀 南里 研二

成年男子
国体シングル
ハンダー級

- | | |
|-------|--------|
| 1 佐賀 | 南里 研二 |
| 2 京都 | 安田 真之助 |
| 3 和歌山 | 谷口 斉謙 |
| 4 愛知 | 永井 久規 |
| 5 山梨 | 高村 幹治 |
| 6 広島 | 前田 博志 |
| 7 秋田 | 斎藤大輔 |
| 8 鳥取 | 八木谷 充 |



新潟 小菅 寧子

成年女子
国体ウインド
サーフィン級

- | | |
|-------|--------|
| 1 新潟 | 小菅 寧子 |
| 2 滋賀 | 伊勢田 愛 |
| 3 東京 | 須長 由季 |
| 4 和歌山 | 小島 真理子 |
| 5 神奈川 | 堀川 智江 |
| 6 鹿児島 | 須賀 愛実 |
| 7 埼玉 | 鎌石 恵子 |
| 8 千葉 | 三石 真衣 |



新潟 富澤 慎

成年男子
国体ウインド
サーフィン級

- | | |
|-------|-------|
| 1 新潟 | 富澤 慎 |
| 2 大分 | 黒石 勇次 |
| 3 東京 | 倉持 大也 |
| 4 和歌山 | 尾川 潤 |
| 5 京都 | 内園 拓也 |
| 6 静岡 | 市川 和典 |
| 7 熊本 | 河野 宏和 |
| 8 神奈川 | 山崎 大輔 |



佐賀 中山・池内

少年女子
セーリング
スピリッツ級

- | | |
|-------|-------|
| 1 佐賀 | 中山・池内 |
| 2 千葉 | 北林・宮野 |
| 3 東京 | 林・大島 |
| 4 長崎 | 元津・濱本 |
| 5 神奈川 | 深沢・馬渡 |
| 6 兵庫 | 山田・大龍 |
| 7 山口 | 藤井・内富 |
| 8 岐阜 | 伊藤・末谷 |



山口 小泉・有岡

少年男子
セーリング
スピリッツ級

- | | |
|------|-------|
| 1 山口 | 小泉・有岡 |
| 2 佐賀 | 岡田・宮口 |
| 3 大分 | 永松・林 |
| 4 千葉 | 今井・田中 |
| 5 静岡 | 杉山・中山 |
| 6 兵庫 | 奥村・藤井 |
| 7 茨城 | 沼崎・木村 |
| 8 岐阜 | 近藤・伊藤 |



兵庫 鄭 愛梨

少年女子
シーホッパー級
スモールリグ

- | | |
|-------|--------|
| 1 兵庫 | 鄭 愛梨 |
| 2 佐賀 | 多田 緑 |
| 3 神奈川 | 遠藤 紅葉 |
| 4 東京 | 安藤 夏海 |
| 5 山口 | 仲山 千尋 |
| 6 大分 | 赤嶺 華歩 |
| 7 千葉 | 宮田 月乃 |
| 8 長崎 | 板見 佳奈恵 |



佐賀 樋口 碧

少年男子
シーホッパー級
スモールリグ

- | | |
|-------|--------|
| 1 佐賀 | 樋口 碧 |
| 2 静岡 | 北村 勇一朗 |
| 3 和歌山 | 西尾 勇輝 |
| 4 鹿児島 | 中島 亮 |
| 5 広島 | 榎原 豪 |
| 6 愛媛 | 青野 鷹哉 |
| 7 千葉 | 植木 武成 |
| 8 長崎 | 矢野 航志 |

東京オリンピック開催のプレゼンテーションで「おもてなし」の言葉が世界中に発信され、開始式では地元伝統芸能「砂村囃子(すなむらばやし)」の演奏と獅子舞が行われ、全国の都道府県選手団からは大きな拍手が起こった。

27日(金)から計測が始まり、28日(土)の午後からは4mの風の中、トライアルレースが実施された。

大会は都道府県の支援艇は使用できず、陸上からレース状況も視認できないため、ユーストリームによる映像のネット配信を行った。同時に陸上にいる監督や観覧者のために会場内にモニターが何カ所も設置され、好評だった。

29日(日)

晴れ、北の風3m

成年男子470級第1レースでは三重県佐藤三郎選手、山口県中村公俊選手、神奈川県一人選手のメダリストや元オリンピック選手が参加し、風が弱い状況ではあるが第1マークまではまさに往年の名選手による腕前が発揮され、エキサイティングで白熱したレースが繰り広げられた。

この日は20レースを予定していたが、昼頃には風が落ちて午後は陸上待機となり、3時ごろから南東の風3mが入り、午後5時までに16レースが実施できた。

全都道府県が参加した成年男子団体シングルハンター級では3mの風の中スタートしたが、途中中風が落ち47艇中6艇のみフィニッシュし、41艇はDNFとなるサバイバルなレース展開となった。

大会もチャイルドルームがクラブハウス2階に設置され、29日の日曜日には52名の利用があった。選手や見学者には好評で、他の競技団体からも視察に訪れていた。

今後も女子選手が競技を継続するためにチャイルドルームは必要不可欠な施設で、各競技団体も東京オリンピックへ向けて注目されることと思われる。

また、環境にやさしい取り組みとして、古いセイルをリサイクルしてエコバッグを作る試みをJSAF環境委員会が初めて国体会場で行い、54名の参加があり、好評だった。

地元の大嶽部屋の力士による「おもてなし」があり、ちゃんこ鍋が選手や監督、関係者に振舞われ、長蛇の列ができた。

30日(月)

晴れのち曇り、北東の風4~6m

前日実施されていないレースも含めこの日は各海面12レースが予定された。風は安定して吹き、予定どおり24レースが行われ、各種目すべて4レースを実施することができた。

1日に1海面で12レースを実施することはレースコミッテーターにとつて大変な重労働だったと思われる。選手は次々に交代してレースを行うが、海上役員は同じ作業を12回しなければならず、東京都ヨット連盟を中心としたレースコミッテーターに頭が下がる。各海面の発着水路部役員による素晴らしいレース運営で選手を満足させることができたと思われる。

この日、台風22号が日本近海に発生した。大会前にも台風20号が接近したため江東区実行委員会では会場内の仮設テントの縮小など素早い対応をしていたいたが、台風22号は最終日の2日には影響が大きくなることが想定されたため、レース実施について競技委員会、レース委員会と実施本部と協議を行なった。その結果、日程どおり実施することとした。

10月1日(火)

曇り時々雨、北の風3~7m

大会は各種目5レース以上成立すれば最も悪いレースを除外できる。そのため、海上役員も張り切って、選手のためにと5レース実施に向け運営が行われた。

また、この日のレース結果でおおむねの成績が決まり、最終日は台風22号の影響も心配されたため、各都道府県選手団はいっそう気合いが入っていた。

結果として、予定された各海面8レース合計16レースが時間どおり終了し、レース運営のレベルの高さを感じさせる海上運営であった。

10月2日(水)

雨、北の風10m

台風22号の影響が朝から表われ、とくに雨による視界不良のため10時20分に残りの4レースが中止された。60レース中56レースが成立し、各種目が終了した。

最後に

男女総合成績の天皇杯、そして皇后杯を獲得した千葉県選手団を賞賛すると

もに、各選手団のご協力に感謝を申し上げます。

大会は全体的に狭い場所であったがコンパクトにまとめられ、「おもてなし」や大会を楽しむ気配りがいくつも配慮され、国体のあるべき姿が表現された素晴らしい大会だった。

大会開催にあたりスバル興業(株)、東京東部漁業協同組合、東京湾遊漁船業協同組合、公益財団法人関東小型船安全協会及び地元ボランティア団体など多くの関係者のご支援に感謝を申し上げます。

また、長年にわたり、ご尽力いただいた江東区、東京都ヨット連盟の皆様にご挨拶を申し上げます。

男女総合成績 (天皇杯)

- 1位 千葉
- 2位 佐賀
- 3位 東京
- 4位 和歌山
- 5位 山口
- 6位 大分
- 7位 愛知
- 8位 長崎



QUANTUM

www.quantum-jpn.com
info@quantum-jpn.com

[スタッフ募集]

Quantum-Japanでは、セイルメイキングに興味のあるセイラーを募集します。下記メールアドレスに履歴書添付の上、応募をお待ちしています。

japan@quantumsails.com

www.wattsmarine.jp

(株)セイルス・パイ・ワッツ・ジャパン
本社ロフト

〒238-0233 神奈川県三浦市向ヶ崎町 8-40
電話:046-882-5451 fax:046-882-4319
関西営業所(新西宮 YH)

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜 4-14-3
電話:0798-23-6410 fax:0798-23-6420



ASTRON
GPS
SOLAR

SEIKO

お問い合わせ先: セイコーウォッチ お客様相談室 0120-061-012 (9:30~17:30土・日・祝日除く)

タモリカップが嵐を呼んだ?!



「嵐を呼ぶ男」と命名した秋山雄治実行委員長
(写真/福岡県セーリング連盟)

「日本一楽しいレース」と定評のあるタモリカップが横浜（8月31日、9月1日、横浜ベイサイドマリーナ）と福岡（9月15日、福岡市ヨットハーバー）で行われた。横浜で200艇近く、福岡で90艇近くものエントリーがあったが、残念なことに両会場とも台風のためにレースは中止。タモリさんは一躍「嵐を呼ぶ男」と異名をとることになったが、一方でパーティは大いに盛り上がった。後援団体のJSAFはこの機を捉え、メンバーを増やそうと横浜会場にスタッフを投入した。

レポート/菅原弘（福岡県セーリング連盟）& J-SAILING 写真/濱谷幸江

横浜でメンバー獲得

横浜会場のパーティのオープニングでは、主催者からJSAFの活動の紹介があり、それを受けて山崎達光JSAF名誉会長が「会員獲得のために会場を回ります」と宣言。急遽編成されたJSAFガールズを伴ってパーティ会場を巡った。

一方、神奈川県セーリング連盟とJSAF会員増強プロジェクトのスタッフは、特設テントでJSAFに関する問い合わせなどに応じるとともに、会員登録の受け付けを行った。当日メンバーになってくれた人にはタモリカップ特製のマグカップを進呈するなどの特典を用意し、10人が新規メンバーとなった。人数としてはわずかであるが、これまでこの種の直接的な会員勧誘活動を行ったことのないJSAFにとっては大きな一歩となった。

しかし、この夜の横浜ベイサイドは燃えた。マリーナスタッフ「台風でパーティ参加者の動員が心配だったが、予約席はほぼ満杯。タモリさんの人気はスゴイ!」と感心することしきり。タモリさんの「ヨット人口をもっと増やしましょう」の掛け声がセーラーたちに火をつけたのだ。



セーラーが熱狂したタモリカップ・パーティ

福岡も盛り上がった

福岡会場は準備期間が2カ月弱しかなかったが、全国から87艇600名超の参加を見た。

タモリさんも前日の艇長会議から駆けつけ、「私の故郷・福岡に呼んでいただきありがとうございます。ヨットレースは楽しいものです。私は明日のパーティに全力を尽くします」と宣言。

レースは中止になったものの、福岡では15日に西福岡マリーナ（通称マリノア）で出場艇による海上パレードが開催された。タモリさんはマリノア名物・観覧車の下で全艇に手を



誰よりも盛り上がったタモリさん



横浜会場でJSAFメンバーになっていただいた新会員（写真/J-SAILING）

振って激励。隣では太宰府天満宮の宮司による安全祈願のお祓い、地元人気女子アナ・新垣泉子さんのナレーションが花を添え、仮装・コスプレ・万国旗・大漁旗なんでもありのパレードとなった。

その後のパーティで秋山雄治実行委員長は「タモリさんは横浜でも、

福岡でも『嵐を呼ぶ男』でした」の言葉に大きな笑いが起こった。

福岡のラテンバンド、サクライスピントコンピントウラがゴキゲンなリズムと華やかなパフォーマンスで盛り上げ、参加者のスタンドアップ状態の中、タモリさんが演奏に飛び入りし、ムードは最高潮。中締めはタモリさんの「来年も福岡でやっていいかな?」の問いかけに、「いいとも!」と場内全員がこぶしを突き上げていた。

横浜、福岡のこの盛り上がりは、ヨットの普及活動の一環となったと感じられたタモリカップだった。